

Watoto

Signs & Wonders

サインズ & ワンダース

A VIBRANT WORSHIP EXPERIENCE
THE SOUND OF A TRANSFORMED GENERATION
BY A FAMILY OF ORPHANS
FROM UGANDA

WHEN 日時/時間

2/13/2018 (火曜日) 午後 3:00-4:30

WHERE 場所

栄聖書教会

アガペクリニックとなり

最寄り:日進駅

WATOTOCHURCH AT WORK
WATOTO.ASIA



ワトトの目的

ワトトは、ウガンダの親を失った膨大な人数の子供や弱り果てた女性たちに対応する総合ケアの働きです。祖国再建に向けて、個々を救護し、それぞれを社会の貢献者として育成することを目的としています。

ワトトでは、身体的な介護、HIV /エイズ治療を含む医療処置、正規技術教育、トラウマ・カウンセリングや霊的な弟子訓練などの多義にわたる支援を行っています。

学術と実践的スキル、また、行動と道徳的価値判断の健全さにおいて、より優れた人格形成を追求することによって、それぞれが責任あるクリスチャンとして社会に貢献する市民となり、アフリカの次世代のリーダーを育てるための働きです。

私たちの目標は、2023年までにウガンダの1万の子どもたちをケアし、アフリカ大陸全土における孤児や女性たちの救済に迅速に対応するモデル事業となることです。



ワトトのはじまり

1988年、ラカイという町で、私は忘れることのできない衝撃的な現実を目の当たりにしました。

その八年前、私は家族と共に、暴力と貧困で知られた国ウガンダに移り住みました。そして、神が、市民のみならず国民にも希望を回復させるであろうことを信じ、私たちはウガンダの破壊された首都、カンパラに教会を建てました。

ウガンダの人々は過酷な忍耐を強いられていました。墮落し抑圧的な支配者たちは、国民に敵対し無情な戦争を繰り広げたあげく100万人近い人々を虐殺したのです。

ある日、私に79歳の未亡人を訪問する機会が与えられました。彼女は7人の供子どもの母親でした。小さな小屋の後ろにあるバナナ畑を歩いている時、彼女はお墓を指さし始めました。それは7つあり、彼女の夫と6人の子どもたちの墓でした。エイズが全員を殺したのです。

最後の生き残り、たった一人の娘も同じ病気で死にかけていました。

ヤコブの手紙 1:27が思い出されました。“父なる神の御前できよく汚れのない宗教は、孤児や、やもめたちが困っているときに世話をし、この世から自分をきよく守ることです”

簡素なウガンダの村でのこの女性との出会いは、私の存在の核心に迫り、人生の決定的な瞬間の一つになりました。

これを機に、1994年、カンパラのワトト教会からワトト・チャイルドケア・ミニストリーズが誕生したのです。

ワトト創設者 ゲイリー・スキナー

WatotoHP (<http://www.watoto.asia/ja/>) より抜粋